

令和3年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

令和3年9月7日（火）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和3年9月7日（火）紙面開催（まん延防止等重点措置の適用により参集せず
紙面回答に協力していただいた）

参加者：学校関係者評価委員・教職員

河西 正仁（藤田区自治会長，学校評議員）
深沢 和治（浅原区自治会長，学校評議員）
飯野 章（元学校長，教育ボランティア，学校評議員）
深澤 美香（主任児童委員，学校評議員）
穂坂 直人（PTA 会長，学校評議員）
原 美雪（PTA 副会長，学校評議員）
河野 瑞穂（校長）
志村 泉（教頭）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ：学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 回答された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。また、全校児童のアンケートの集計結果は、全10の質問項目中、肯定的評価が90%以上の項目が8つ、80%以上の項目が2つであり、全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。しかし、「満足していない」の回答がある項目については、指導の改善を図っていかなければならない。

引き続き、一人ひとりの児童を大切にしたい指導を充実させ、主体的に学ぶ児童の育成の取り組みに期待したい。

II 第2回学校評議委員会で出された主な意見

児童アンケートの内容と結果について

- 子供たちのアンケート結果が肯定的であることは、日頃の先生方が児童に寄り添った指導、教育を行っていただいている結果となっている。子供たちは学校生活に概ね満足していると思う。特に「学校が楽しい」と肯定的な評価が94.3%で子供たちにとって学校が楽しい場所であることは最も大切なことであり、素晴らしい数値だと思う。しかし、約6%の子供が否定的回答をしていることが気になる。具体的な要因を把握し、日常のきめ細かな指導と共に、これからも一層子供たちに寄り添い一人ひとりが生き生きと活動し、学校生活での居場所づくりをお願いしたい。また、後期は全員が肯定的な回答となるような活動を期待したい。
- 「あいさつをしている」 早朝、畑にいる時集団登校をする児童に会いますが、児童から挨拶をするので100%ぐらいの評価であると思う。
- 「あいさつ」について肯定的評価が高いが、登校時の様子からは、個人差が大きいと感じる。学校では児童会を中心にあいさつ運動に取り組んで成果をあげているということだが、これからも学校、家庭、地域が一体となってあいさつの輪を広げていきたい。
- コロナ禍で先生方が日頃授業でご苦労されている様子がうかがえる。授業での発言等は、学級集団の雰囲気が大きく作用する。お互いの立場を尊重し、望ましい人間関係を築き、何でも自由に話せる学級集団作りを目指してほしい。制約がある中でも、主体的活動が「居場所」につながるように引き続き、検討と実施をお願いしたい。
- 「授業がわかる」96.4%はすごい数字だと思う。先生方の熱心さが伝わってくる。
- 「困った時に誰かに相談できる」の否定的評価が多いように感じる。この項目も子供たちが安心・安全で楽しい学校生活を送る上で、学校としては常に配慮すべき項目である。家庭内でもいえることであるが、子供たちにとって相談できる人、安心して話せる人がいることは極めて大切なことである。子供一人だけで悩みを抱え、深刻化させないためにも一層家庭との連携を密に、生徒指導・教育相談体制の充実を図って取り組んでほしい。
- 携帯電話の所持率については、高学年になるほど高くなっている。どのように活用しているか実態を把握し、学校と家庭との連携を密にして、折に触れ使い方への指導をお願いしたい。家庭で使い方のルールを決めていない子供もいるようだ。家庭で責任をもって、思わぬトラブルにつながる怖さなどマイナス面も教えていくべきである。ルールを守れなければ所持させないことも検討してほしい。
- コロナ禍の収束が見えない中、ストレスを感じている子供も多くいると思う。今後の感染状況を見ながら、ストレスを軽減させる方法を考えて取り組んでほしい。先生方の努力に心より感謝したい。
- 子供たちの中には当然消極的な子もいると思う。先生方も日々そういう子どもたちと向き合っていると思うが、これは非常に大変で困難を極めることである。ただ一人でも多くの子が自信をもち、何でも相談できる積極性をもたせることが今後の課題である。

職員アンケートの結果について

- 教職員のすべての質問項目に肯定的な回答がほとんどで、学校教育目標を達成するために校長の学校経営方針を先生方が共通理解し協力し合って日々教育活動を推進している様子が伺える。
- 「子どもに基礎的な学力が身につく指導を行っている」「児童を授業に集中させるための指導（聞く態度）に努めている」「家庭学習を定着させるために工夫している」について、全体的には肯定的な評価は高率だが、その中で「そう思う」の評価が前年度と比較しかなり低率になっている。アンケートに真摯に向き合い回答していることも伺える。
学力向上は学校に課せられた最も大事な課題である。コロナ禍で思うような授業づくりができないことが大きな要因であることは予想できる。[学校経営の重点]の中で「自ら学び深く考える子ども」の育成を図るうえで、様々な取り組みや授業実践などを展開し、大変ご苦労されている様子が

伺える。その中であえて前期の評価結果に関わりどのような成果や課題があるか。

- 「校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある」について肯定的評価が 88.9%、否定的評価が 11.1%でほぼ達成されていると思うが、とにかく校務分掌の負担の軽重はありがたいと思う。

特に、考察にもあったように刻々と変化する新型コロナウイルス感染症への臨機応変の対応やそれにまつわる様々な仕事量の増大などで負担の差が生じたとあったが、本校が校務分掌でなるべく主・副と複数で運営しながら若手や中堅教諭が連携して推進していることは組織として有効に機能している点を感じられる。今後も先生方が個々に進めるのではなく、組織として子供たちの指導にあたっていただきたい。

また、若手教員の育成も大事な観点で、これからも組織として一丸となって意欲をもって働くことができるような職場づくりを目指してほしい。

- 多くの子供たちを指導する上で、思わぬハプニングや予想と違う行動、言動に振り回され、肯定的な考えや行動が伴わない場面もあると思うので、関係機関との連携をとり、きめ細かいフォローをお願いしたい。
- 「家庭学習」については、家庭学習強化週間の取り組みの工夫や学級だよりでの学びノートの紹介などいろいろ創意工夫しての指導の成果があらわれ、児童の家庭学習や自主学習への意識が高まっていることは大変すばらしいと思う。家庭学習は保護者の協力がないと成果は上がらない。これからも子供たちの学習意欲を喚起しながら、家庭との連携を密に継続して、家庭学習の定着を図ってほしいと思う。
- 授業を受け持ち、子供たちに勉強を教え、これだけ多くの事柄に気を配りながら日々過ごされていることは保護者でない私も頭の下がる思いである。これからも子供たちのために頑張してほしい。
- 1年半にもなる新型コロナウイルス感染対策のため学習計画、地域見学、季節行事、学校内の消毒と変更や余計な作業で大変だと思う。一番気になるのは先生方の気力が落ちないか心配である。新型コロナウイルス終息までがんばってほしい。

その他

- 児童・教職員ともにプラス評価が大きく上回っており、日頃の努力が成果につながっていると思われる。また、子供たち、教職員の良好な関係がうかがえる。マイナス評価となっている項目の意見も吸い上げ、漏れなく改善してもらいたい。中学・高校と進んでも一人の落ちこぼれの出ないような学校づくりに期待する。いじめ問題、引きこもり、自殺等が発生する前に解決したいと保護者も願っている。
- 先生方は毎月 10 日、20 日、30 日に通学路で児童指導されているが、その時見守りたすきを着用したほうがよい。保護者や地域の方々に啓蒙する意味でも、まず先生方が率先して着用することが肝要かと思う。
- 2 学期が始まり全国的に児童・生徒の感染拡大が報道され、学校では厳しい感染防止対策が求められていると思う。それでなくても勤務が多忙化している現状の中で、さらに感染対策でご苦労されている先生方には感謝したい。

Ⅲ 今後の改善策について

【学校生活について】

- 否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、思いを聞き、課題となっていることは何かを把握して、児童一人ひとりにしっかりと対応していく。また、「困ったときに誰かに相談していいよ」というメッセージを送りながら、全職員で共通理解を図り、指導にあたりたい。
- あいさつを心の交流の第一歩として、教職員、児童会を中心に率先して行っていく。「心のやりとりきちんとあいさつ・心に向ける返事・心をそろえるくつそろえ」の浸透を図り、一人ひとりの児童のよさを認める活動、あいさつ運動を進める。

【学習について】

- 2学期以降は、基礎基本の定着を図ることを主眼に置いた学習活動の工夫ができるようにする。ICT活用も基礎基本の定着の一助となる。発達段階に応じてドリル学習などを取り入れていきたい。また、発言または意見を発表することと合わせて、友だちの意見にうなずき、しっかりと聞くこと、質の高い学び合いにつながっていくようにすることに取り組んでいく。
- 安心して発表ができる雰囲気の学級をつくっていく。校内研究会の充実とともにさらに授業改善を図っていく。
- 学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大切である。家庭学習を充実させていけるよう、保護者の理解を深め、今まで以上に協力を求めていきたい。
- 特別支援学級の児童について、交流学級とより連携を図りながら、個別のニーズに合った指導をしていく。今後もケース会議等を開催し、共通理解を図りながら進めていく。

【生徒指導について】

- 子どもたちに寄り添い、良さを認め伸ばしていく。教師と子ども、子ども同士の関係づくりをより一層進める。
- 学年や教務、保護者、必要に応じて関係機関と連携を図って取り組むことを大事にする。組織的・継続的な取り組みを通して、諸問題の解決につなげていく。
- 教職員は様々な情報を共有し、アンテナを高くし、すべての教育活動を通して、困っている子はいないか見据えていく。いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。